

岩手県医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」

5V-10

佐々木 淳* 三石 大* 船生 豊* 佐々木和也+ 鎌田弘之+ 木村幸博#

*岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 +岩手医科大学附属循環器医療センター

#盛岡友愛病院在宅医療部

E-mail (代表) : jsasaki@soft.iwate-pu.ac.jp

1. はじめに

本格的な高齢社会を迎えた21世紀においては、医療の質の向上と円滑な介護保険制度の運用が求められる、この分野での情報システムの役割は大きい[1]。特に、高齢者にとって、在宅医療・介護サービスは、施設での療養に比べて精神的、経済的負担が軽減されるため社会からのニーズが高い。本サービスを支えるネットワークシステムは、できれば市町村を超えた広域な範囲で構築される方が経済的であり、運用効果も高いであろう。

このような考え方にに基づき、著者らはまず岩手県内において次世代の医療福祉ネットワークシステムを構築することをねらいに岩手県医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」を設立した。以下では、その概要と今後の検討対象等について述べる。

2. 背景

岩手県においては、釜石市の「うらら」や川井村の「ゆいとりネットワーク」のような実績のある医療福祉ネットワークシステムが存在している。しかし、他の地域においてはこれらの流用可能性が不明であるため独自のシステムを構築しようとしている。この場合、類似の情報システムに対しても常に初期導入コストから負担することになり、経済的理由により導入が進まないのが実情である。

そこで著者らは、共通的に利用できる部分について明らかにするとともに、次世代の地域情報システムとして発展させるため、医療、社会福祉、情報、製造業などの幅広い分野から専門家を集め、平成11年7月にコンソーシアム（連合組織）を設立した。

3. コンソーシアムの概要

コンソーシアムは地域社会に対して技術支援を行うボランティア団体であり、組織名称は宮沢賢治の童話小説から引用し、「ポラーノ広場」とした。

3.1 目的

(1) 岩手スタンダード：本コンソーシアムでは優れた医療福祉情報システムについて「岩手スタンダード」として認定し、岩手県内に広く普及させ、導入コストの低減を図る。また共通技術については地域標準として仕様化する。

(2) 国内外標準技術の啓発：国内外における関連分野の標準技術を把握し、国際標準と互換性のあるシステムを構築するとともに、新規に開発した技術を国内及び世界の標準機関へと提案する。

(3) 共同研究開発と知的財産の維持：主要な情報システムのプラットフォームについては、共同契約に基づいて研究開発を行う。その成果物については会員に対して提供・開示し、普及させる。

(4) 地域産業の育成：個別導入時のカスタマイズは産官学が連携したワーキンググループ体制によって行い、地域の情報産業及び人材の育成に寄与する。

3.2 「ポラーノ広場」の位置づけ

「ポラーノ広場」は、医療福祉サービス提供機関と医療福祉情報システム開発機関との仲介役である（図1）。ここでは、サービス提供機関に対してはコンサルティングを、開発機関に対してはニーズ提示を行う。異なる地域に共通技術を流用することにより経済的なシステムを提供することが可能となる。

The consortium "Polarno Hiroba" for Medical and Welfare Information Systems in Iwate Prefecture

Jun Sasaki* Takashi Mitsuishi* Yutaka Funyu* Kazuya Sasaki* Hiroyuki Kamata* Yukihiro Kimura#

*Iwate Prefectural University

+Iwate Medical University

#Morioka Yu-Ai Hospital

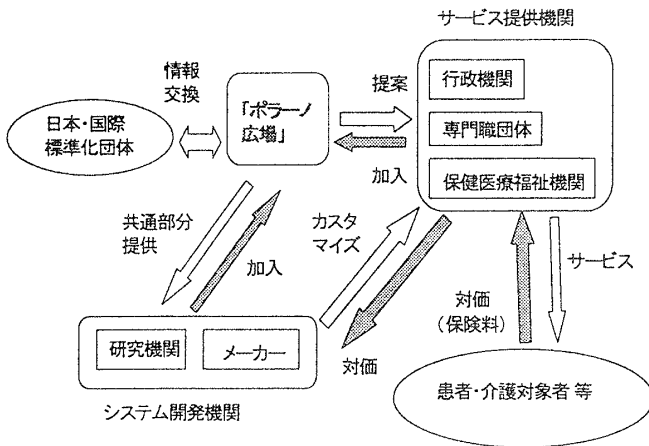


図1 ポラーノ広場の位置づけ

3.3 運営方法

「ポラーノ広場」の事務運営に関わる費用については年会費によって賄う。7月21日現在で、企業会員13社（情報、医療機器、メーカー等）、個人会員14名（大学関係者等）の応募があった。今後、自治体、医療機関への広報活動を行う予定である。

4. 今後の予定

4.1 情報システムの分類

我が国には保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）があり、1999年度に登録された商品としては次のようなものがある[2]。

総合病院情報システム（オーダリングシステム）：22件、医療事務（レプト処理）：50件、栄養、給食管理システム：24件、看護婦支援システム：13件、薬剤管理システム：31件、病歴管理システム：12件、診療支援システム：32件、画像診断支援システム：29件、検査データ管理システム：27件、健康管理指導システム：28件、歯科診療支援システム：23件、統計データ処理分析システム：46件、教育支援、データベースシステム：24件、福祉関連システム：46件、合計407件

医療福祉サービス提供機関にとっては上記のように分類された多数のシステムの中から最も適したものを選択することは困難であると思われる。

これらのシステムは誰が使うのかという視点から見直すと、以下のように分類することができる。

- (a) 医師（内科，外科，産婦人科，歯科）：96件
- (b) 事務担当者（受付，会計，物品，経営）：72件
- (c) 薬剤師（薬品，調剤）：31件
- (d) 栄養師（栄養，給食）：24件
- (e) 技師（検査，X線，細胞，血液）：27件
- (f) 看護婦（管理者，従事者）：13件
- (g) ケアマネージャー：46件
- (h) ヘルパー（保健婦，ホームヘルパー）：28件
- (i) 教育者：70件

今後、上記のシステムに対し、ユーザの視点からみて必要最小限な機能と利便性を向上させるための機能、不要な機能を明らかにし、考え方を整理する。

4.2 検討対象

「ポラーノ広場」では、地域でデータ共有し、標準化する価値があるものから順に詳細に検討する。当面は図2に示す各システムについて使用者と一体となったワーキンググループ体制で研究を進める。

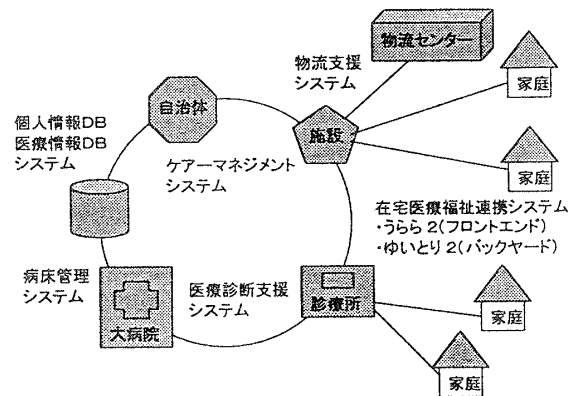


図2 検討対象

5. あとがき

本報告では、岩手県をフィールドとして設立した医療福祉情報化コンソーシアム「ポラーノ広場」の概要と今後の検討対象について述べた。具体的な研究内容については別途報告してゆく予定である。

【参考文献】

- [1] 大槲陽一，「地域医療と情報化」，医療とコンピュータ，Vol.9, No.10, pp.2-6(1998)
- [2] JAHIS 監修，「保健医療福祉情報システム・ソフトウェアガイド」，日本電子出版（1999）